

***** 公開セミナーのお知らせ *****

日時：2018年9月20日（木）13：15～14：15

場所：自然研本館 101 講義室

演者：西田 治文 先生（中央大学理工学部・教授）

タイトル：「南極とパタゴニアの時空植物史」

講演要旨：

パタゴニアとオセアニアには多くの近縁な植物が、太平洋をはさんで隔離分布している。特に、両方の地域の森林で優占種となっているナンキョクブナ属 *Nothofagus* は、種子の遠距離散布ができないため、現在の分布様態の起源については、大陸移動説の復活によって Gondwana 大陸の存在が認知されるまで、明確に説明できなかった。分子系統によって現在の種間系統はあきらかになったが、実際の移動と種分化とその背景にある生態学的・地理学的変化は未解明である。チリパタゴニアの生物多様性の希少性と脆弱性は日本のそれと同様に、今後の真剣な保全が望まれる。その前提となる事実として、現在の生物相の歴史性を明らかにしておく必要がある。近年、チリの経済的安定に伴って、パタゴニアだけでなく南極半島での古生物学的調査が急進している。恐竜も含む全生物相の解明が進むなかで、ナンキョクブナが南極半島からパタゴニアに移動した時期や理由が明らかになりつつある。2度の南極調査の様子も含めて、紹介する。

本セミナーは、自然システム学類 特別講義 A の一部をどなたでもご参加頂ける公開セミナーとして実施するものです。

皆様のご参加をお待ちしています。

招聘教員：理工研究域 生命理工学系 小藤 累美子

(kofuji@staff.kanazawa-u.ac.jp; 内線 6208)